

ICEP 2017 インド

インターナショナル・コミュニティ・エンゲージメント・プログラム
International Community Engagement Program

活動報告書



認定NPO法人ミュージック・シェアリング

〒102-0092 東京都千代田区隼町2-12 藤和半蔵門コープ708
TEL:03-3261-1855 FAX:03-3261-1856 E-mail:info@musicsharing.jp
<http://www.musicsharing.jp>

■ 認定NPO法人ミュージック・シェアリングとは

1992年より、成長過程にある子どもたちをはじめ、音楽に触れる機会の少ない人々に本物の音楽を届け、文化・教育・芸術の振興を目的とした活動を行っています。本物の音楽を通して豊かな心を育てるとともに、音楽家の社会貢献活動に対する理解を深める場を提供する音楽プログラムを実施しています。ミュージック・シェアリングの活動は全て、個人、法人からのご寄付・ご支援、助成金、企業協力によって成り立っています。

■ ICEP（インターナショナル・コミュニティー・エンゲージメント・プログラム）

五嶋みどりと世界中からオーディションによって選ばれた若手演奏家3名がカルテットを組み、アジアの開発途上地域の学校・病院・施設などを訪れ、音楽を通じた教育支援と文化交流を行うプログラムです。これまでに、ベトナム（2006年）、カンボジア（2007年）、インドネシア（2008年）、モンゴル（2009年）、ラオス（2010年）、バングラデシュ（2012年）、ミャンマー（2013年）、ネパール（2016年）、インド（2017年）で実施し、12月に行われるICEPツアーの翌年6月には日本での「訪問プログラム」に参加し、東京と大阪で「活動報告コンサート」を行います。

ICEP 2つの目的

◆未知の文化体験をアジアの子どもたちに

訪問する地域の人々は、身近な場所でクラシック音楽の生演奏を聴く機会がほとんどありません。子どもたちをはじめ、参加する現地の人々に対しては、今まで触れる機会の少なかった生のクラシック音楽に触れることで世界観が広がり、相互理解や向上心を育むことを目指しています。

◆世界各国の若手演奏家とともに活動

五嶋みどりとカルテットを組むのは、世界からオーディションにより選ばれた若手演奏家3名。オーディションでは録音審査以外に小論文やメールインタビューの課題を設け、総合的に評価しています。若手演奏家がICEPでの経験を通じて音楽のもたらす力について見つめ直し、音楽家としてできる社会貢献活動とはどのようなことなのか、実体験を通じて認識していきます。

日本での活動

ICEP訪問国での活動を日本国内に発信するため、ツアーの翌年、日本でカルテットを再結成しています。演奏とともに訪問国での活動について演奏家自身が語る「ICEP活動報告コンサート～五嶋みどり& Young Artists」の実施に加えて、日本の学校・病院・施設等を訪問する「訪問プログラム」にも参加し、日本の子どもたちにも、本物の音楽を届けます。



■ 参加アーティスト



Photo: T. Greenfield-Sanders

五嶋みどり (ヴァイオリン)

Midori

11歳でニューヨーク・フィルとの共演でデビュー以来、世界のトップヴァイオリニストとして著名な音楽家と共演を重ねる。世界で年約100回のコンサートに出演する傍ら「認定NPO法人ミュージック・シェアリング」など日米で4つの団体／プログラムを設立し、音楽家による社会貢献活動のモデルとして25年以上先導的な役割を果たしている。現在、カーティス音楽院で教鞭を執る傍ら、南カリフォルニア大学ソーントン音楽学校をはじめ世界主要音楽院や夏期講習のマスタークラスなどで後進の指導にあたる。07年より国連ピース・メッセンジャー。ソリストとして参加した「ヒンデミット作品集」は第56回グラミー賞最優秀クラシック・コンペディアム賞を受賞。使用楽器はガルネリ・デル・ジェス「エクス・フォーベルマン」(1734年作)。 <http://www.gotomidori.com/>



エリーナ・ブクシャ (ヴァイオリン)

Elina Buksha

クラシック専門誌『The Strad』は「物語を奏でるような深い表現力」、「洗練された技巧と独創的な演奏」と称賛。2012年大ラトビア音楽賞では栄える最優秀新人賞に輝き、若い音楽家たちの中でも活躍が期待されている。1990年ラトビアに生まれ、5歳の時にヴァイオリンを始める。その後オーギュスタン・デュメイやアナ・チュマチェンコらに、現在はクリストフ・ポッペンに師事。マリア・ジョアン・ピリス、ゲイリー・ホフマン、モディリアーニ弦楽四重奏団、他多くのアーティストらと共演。エリザベート王妃音楽教会より貸与された1723年製の名器ドメニコ・モンタニャーナを使用し、音楽以外では香料、詩と絵画の制作に情熱を注ぐ。

<http://musicchapel.org/elina-buksha/>



Photo: K. Lemmon

ベンジャミン・ベック (ヴィオラ)

Benjamin Beck

ミュンヘンのゲルトナープラッツ劇場の第一首席ヴィオリスト。パリ国立高等音楽・舞踊学校にてジャン・スレムに師事し、ニューイングランド音楽院を経て、アカデミストとしてベルリン・フィルハーモニー管弦楽団で演奏。またソルボンヌ大学で音楽学の学位も取得。賞歴は数多く、リャネス（スペイン）の国際コンクールでは優勝と特別賞を受賞。ドイツやフランスでソリストとしても活躍し、室内楽奏者としてはパリのサル・プレイエル、東京の読売ホール、ベルリン・フィルの室内楽ホール、ボストンのジョージ・ホールなどでクリスチャン・テツラフ、キム・カシユカシャンといったアーティストらと共演。2015年に初ソロ・アルバム「L'alto et la voix」をリリース。

<http://benjaminbeck.fr/>



スタニスラス・キム (チェロ)

Stanislas Kim

フランス・クールブヴァア出身のチェリスト、スタニスラス・キムは、ハノーファー音楽演劇メディア大学を卒業後も大学院でレオニード・ゴロコフに師事し、研鑽を重ねる。ブラムス国際コンクールなど多くの国際コンクールで栄誉ある賞を受け、シュレスヴィヒ＝ホルシュタイン音楽祭、ヴェルツブルク・バッハ音楽祭やベルゲンのグリーグ音楽祭に出演。ソリストまた室内楽奏者としてヨーロッパやアジアの国々に定期的に招待されている。2018年後半にはソリストとしてアンドルー・マンゼ指揮ハノーファー北ドイツ放送フィルハーモニー管弦楽団と共演予定。

<https://www.stanisaskim.com/>

■ スタッフ



パウル・ミュラー-ハール (ビデオグラファー)
Paul Müller-Hahl



イェンドリック・マシュケ (コーディネーター)
Jendrik Maschke

■ 訪問国

インド共和国

面積 328万7,469平方キロメートル（インド政府資料：パキスタン、中国との係争地を含む）（2011年国勢調査）

人口 12億1,057万人（2011年国勢調査）

人口増加率 17.68%（2011年国勢調査）

首都 ニューデリー（New Delhi）

民族 インド・アーリア族、ドラビダ族、モンゴロイド族等

言語 連邦公用語はヒンディー語、他に憲法で公認されている州の言語が21

宗教 ヒンドゥー教徒79.8%、イスラム教徒14.2%、キリスト教徒2.3%、シク教徒1.7%、仏教徒0.7%、

ジャイナ教徒0.4%（2011年国勢調査）

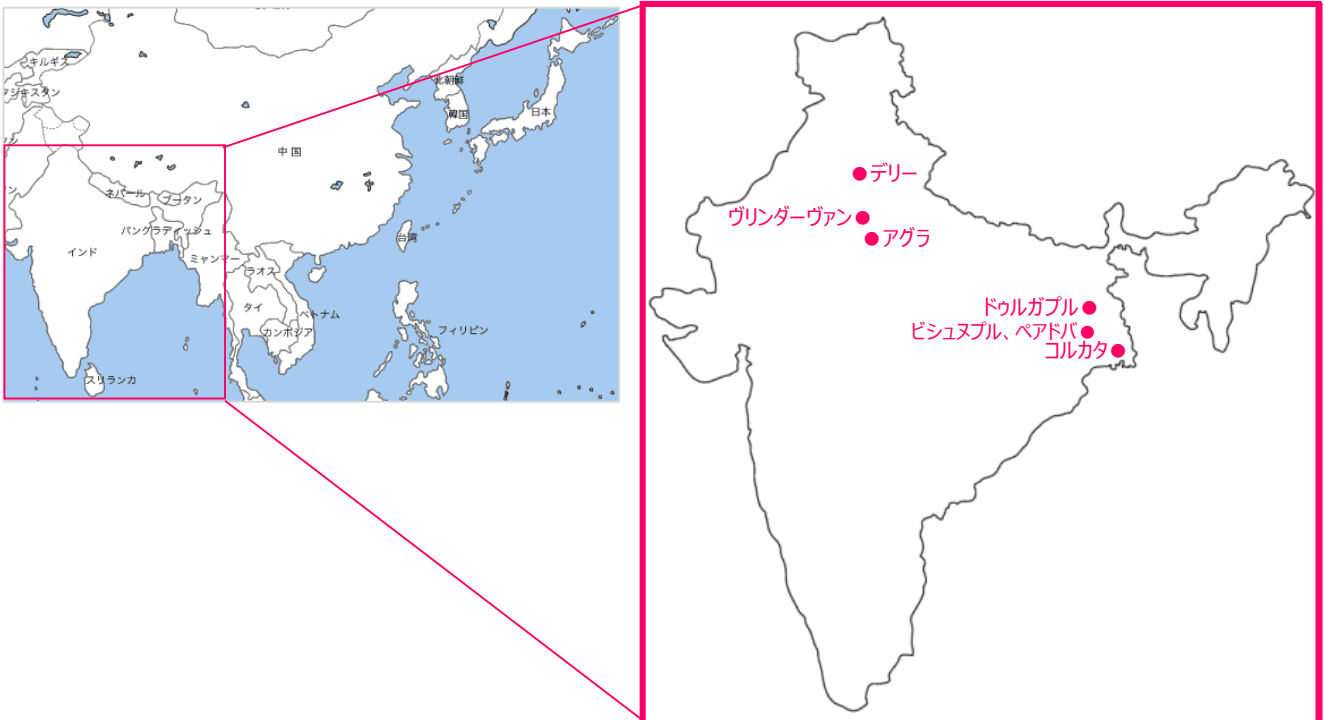
※外務省ホームページより

略史

インダス文明の発祥地。紀元前1500年頃からアーリア人が侵入、やがて仏教やヒンドゥー教がおこった。その後クシャーナ朝・グプタ朝などを経て、16世紀にはムガル帝国が成立。1600年イギリスは東インド会社を設立、インド大反乱後の1877年にインドを直接支配し、イギリス国王を名義上のインド皇帝とする「インド帝国」が成立。ガンジーやネルーの登場で1947年にヒンドゥー教徒の多い地域を領土として独立。近年のインドの人口は毎年1500万以上と爆発的に増加。失業・住宅難など、さまざまな社会問題の原因になっている。国民の80%を占めるヒンドゥー教徒にはカースト制が根強く残り、近代化の障害になっている。多くの民族と言語集団をかかえているため、社会構成が複雑で国の統一を困難にしている。

訪問都市

デリー、アグラ、ヴリンダーヴァン、ドゥルガプル、ビシュヌプル、ペアドバ、コルカタ



■ 活動概要

| | |
|---------|---|
| 活動期間 | 2017年12月19日～12月29日 |
| プログラム回数 | 計22回（訪問コンサート20回+レクチャー2回） |
| 参加者総数 | 約2560名 |
| 主催 | 認定NPO法人ミュージック・シェアリング |
| 助成 | 日本万国博覧会記念基金 |
| 協賛 | キッコーマン株式会社、三井石油開発株式会社、花王株式会社、株式会社小学館 |
| 協力 | 在インド日本国大使館、在コルカタ日本国総領事館、在ニューヨーク日本国総領事館 公益財団法人笹川記念保健協力財団、PR ² Classic Köln、Mr.& Mrs.Wassermeyer、 株式会社オフィスGOTO |
| 演奏曲 | モーツァルト Le Nozze di Figaro, K.492「フィガロの結婚」 ハイドン 弦楽四重奏曲第77番八長調「皇帝」Op.76 - 3 メンデルスゾーン 弦楽四重奏曲第2番イ短調Op.13 その他 |

■ スケジュール

ケルン（ドイツ）で3日間リハーサルを行った後、2017年12月19日、デリーからツアーを開始。デリー、アグラ、ヴリンダーヴァン、ドゥルガプル、ビシュヌプル、ペアドバ、コルカタを経て、12月29日再びデリーに戻り、11日間のツアーを終了しました。

| 日程 | | 訪問地 | No. | 訪問先・プログラム |
|--------|---|----------|-----|---|
| 12月18日 | 月 | | | インド到着 |
| 12月19日 | 火 | デリー | 1 | Action for Autism（障がい者福祉施設） |
| | | | 2 | ICARE Eye Hospital（病院） |
| 12月20日 | 水 | デリー | 3 | SDMC - SEF Bhim Nagri Primary School（学校） |
| | | | 4 | ASN Secondary School（学校） |
| | | | 5 | St. Stephen's Hospital（病院） |
| 12月21日 | 木 | デリー | 6 | SDMC Pratibha Vidyalay School（学校） |
| | | | 7 | Peepul School（学校） |
| | | | 8 | Venu Eye Institute & Research Centre（病院） |
| 12月22日 | 金 | デリー | 9 | Katha Lab School（学校） |
| | | | 10 | Vidya School（学校） |
| 12月23日 | 土 | アグラ | 11 | Robins Nest Children Home（児童養護施設・学校） |
| | | | 12 | St. Joseph's Dispensary (Assisi Sister's)（病院） |
| 12月24日 | 日 | アグラ | 13 | Aryashree（母子生活支援施設） |
| | | ヴリンダーヴァン | 14 | Ma Dhaam（女性生活支援施設） |
| 12月25日 | 月 | ドゥルガプル | 15 | Durgapur Leprosy Colony（ハンセン病村） |
| | | | | レクチャー1：インドのハンセン病について |
| 12月26日 | 火 | ビシュヌプル | 16 | Bishnupur Leprosy Colony（ハンセン病村） |
| | | ペアドバ | 17 | Peardoba Leprosy Colony（ハンセン病村） |
| 12月27日 | 水 | コルカタ | 18 | Offer - Anandaghar（児童養護福祉施設） |
| | | | | レクチャー2：インド音楽について |
| 12月28日 | 木 | | 19 | Future Hope（児童養護施設） |
| 12月29日 | 金 | デリー | 20 | Sannidhi School（学校） |
| 12月30日 | 土 | | | インド出国 |

■ 各訪問先と活動の様子

● 12月19日【デリー】

1. Action for Autism (障がい者福祉施設)

<http://www.autism-india.org/>

Action for Autismは、南アジアで自閉症運動の先駆けとなったNPO団体です。自閉症の人々とその家族の権利について活動し、自閉症者への早期介入、教育、評価（アセスメント）、仕事と雇用、自立した生活、といったライフパンにわたって携わり、同時に啓蒙、弁護、研究も行っています。

- 演奏時間：約45分
- 参加者：約30名（自閉症者約20名＋スタッフ10名）



1. Action for Autismにて

2. ICARE, Eye Hospital (病院)

<http://www.icarecharitablefoundation.org/>

1993年設立、ICARE眼科病院はNGOとして、農村地域に最新の眼科治療を福祉プログラムとして提供しています。

- 病院内の病棟と病室で演奏
- 演奏時間：合計75分（5部屋、各約15分）
- 参加者：約70名（患者約60名＋スタッフ10名）



2. ICARE病院への道中

今日は、とても小さい子どもからお年寄りまでの幅広い年代の人たちへ向けて演奏しました。私にとって、音楽が人々の間にある文化的な壁をいとも簡単に崩していく魔法のような時間でした。皆と一緒に、同じように幸せで自由になり、音楽と喜びを感じることは、とても素敵なことなのです。

(ICEP Blog: エリーナより)

●12月20日【デリー】

3. SDMC – SEF Bhim Nagri Primary School (学校)

<http://simpleeducationfoundation.org/>

Simple Education Foundation (SEF) は子どもたちの教育・公立小学校の変革と強化を目的として、デリーを中心にスラム街に生活する子どもたちなどを対象に活動しているNPO団体です。2017年、デリー南部のBhim Nagri地区の小学校と提携し、都市コミュニティにおいて公立小学校の変革に一石を投じる大きな一歩となりました。

- 演奏時間：合計約60分（2クラス）
- 参加者：約45名（生徒約40名＋教職員5名）
- カルテット演奏後、音楽クラスでインド民謡を披露してくれました



3. 音楽クラスの生徒たちがカルテットに歌を披露

4. ASN Secondary School (学校)

<http://www.asnschool.org/>

1975年設立した男女共学の英語授業の学校で、デリー教育委員会認可を受け、科学、商業、人文学の3つを軸に教育を行っています。

1部:

- 演奏時間：約20分
- 参加者：約1030名（全校生徒約1000名＋教職員・スタッフ30名）

2部:

- 音楽に興味のある学生たちと約30分のセッション
- 参加者：約50名（生徒）



4. 全校生徒の前で演奏するカルテット

5. St. Stephen's Hospital (病院)

<http://www.ststephenshospital.org/>

1885年に設立された、デリーで最も古く、かつ最大級の私立総合病院です。

1部:

- 演奏時間：約20分（メインホールにて）
- 参加者：約110名
（医学生・看護学生・研究者・教職員約80名＋患者・その他約30名）

2部:

- 演奏時間：約60分（15病室、各約5～10分）
- 参加者：約50名（患者約40名＋スタッフ10名）



5. 病室で演奏する五嶋みどり

色、匂い、味…すべてをのみ込むようなスモッグの中、今朝は、スラム街の子どもたちも音楽を学べる、ミュージック・バスティ (Music Basti) のプログラム が行われている学校へタクシーで向かいました。その途中、インド門 (India Gate) の近くを通ったのですが、100m程の距離にもかかわらず、辛うじて認識できる程度で、まるで立ち込める重い灰色の雲の中に白い大理石の門が浮かんでいるようでした。ハイウェイで街を通り過ぎる合間に現地の人々の生活を垣間見ることができました。最新のしゃれたバス乗り場の隣で果物や野菜を売る人たち、舗装されていない歩道で野宿するホームレス、子どもたちや、スーツを着た男性など… そんな中、車が突然停車しました。私たちの前方の車2台が衝突したのです。運転手たちはそれぞれ車から出てきて、にこやかに、かつ礼儀正しく、大渋滞も気にかけることなく、しばし話し合い、その後何事もなかったかのようにそれぞれの車に戻っていき、ようやく私たちの車も動き出しました。今日は多くの子どものたちや患者さんたちに会う予定です。

(ICEP Blog: ベンジャミンより)

●12月21日【デリー】

6. SDMC Pratibha Vidyalay School (学校)

周辺の村やスラム街で生活している子どもたちに無償の学校教育を提供しています。

- 音楽室で約60分間演奏
- 参加者：約35名（生徒約30名＋教職員5名）
- カルテットの演奏の後、生徒たちがインドの歌を披露してくれました



6. エリーナの楽器体験の様子

7. Peepul School (学校)

<https://www.facebook.com/pg/Peepul>

Peepulは2010年より、教育を通じて子どもの生活を変えることを目標に活動している非営利法人です。政府とも連携し、2015年7月にデリーで最初の無償の小学校を開始。Lajpat Nagar IIIに開校したこの学校は当初9人の生徒から始まり、現在230人が通っています。

1部:

- 低学年の音楽クラス向けに約30分間演奏
- 参加者：約30名（生徒約25名＋教職員5名）
- カルテットの演奏の後、生徒たちがインドの歌を披露してくれました

2部:

- 4つの音楽のクラスで約30分間演奏
- 参加者：約75名（生徒約70名＋教職員5名）



7. 音楽クラスで演奏

8. Venu Eye Institute & Research Centre (病院)

<http://www.venueyeyeinstitute.org/>

農村地域の貧しい人々に高度な眼科医療サービスを提供。設立以来、650万人の患者を治療し、42万人を手術し、半数の患者が無償で治療を受けています。

- ソロもしくはアンサンブルでそれぞれの病棟や病室を訪問して演奏
- 演奏時間：合計60分（全10病室、各5～10分）
- 参加者：約80名（患者約70名＋スタッフ10名）



8. 病室で演奏するカルテット

デリー3日目。刺激に満ち溢れた毎日を送っています。見るもの、音、におい、、、どれひとつとして同じではない、本当に忘れられない出会いの連続です。
訪問先のPratibha Vidyalay小学校では、プログラムの最後に子どもたちが「O Ri Chiraiya」という歌を披露してくれました。それは「Satyamev Jayate」というテレビ番組の初回エピソードの終わりに流れた歌で、歌ってくれた子どもたちのかわいらしさとは対照的な内容です。命を奪われた女の子を比喻した鳥に呼びかける歌で、タブーを破って、子どもたちに重要な問題を伝えるのにすばらしい方法だと思います。私はそのパフォーマンスに心を動かされ、後でその強制女児墮胎という問題を取り扱った番組がインターネットで見られることを知りました。
さらなる学びのあった1日に感謝！

(ICEP Blog: 五嶋みどりより)

●12月22日【デリー】

9. Katha Lab School (学校)

<http://www.katha.org/education.html>

1990年、デリーのスラム街の学習センターとして5人の子どもとともに始まり、現在ではデリーとArunachal Pradeshの部族学校で71校となり、約8000人の子どもが在籍しています。

- 演奏時間：約60分（音楽クラスにて演奏）
- 参加者：約40名（生徒約35名＋教職員5名）
- カルテットの演奏の後、生徒たちがインドの歌を披露してくれました



9. 中庭にて

10. Vidya School (学校)

<http://vidya-india.org/about-us/programs/delhi/>

2009年に開かれた最先端の英語教育に力を入れている学校で、教育と施設の質は市内で最高レベルの公立小学校です。今年はブリティッシュ・カウンシル・インターナショナル・スクール・アワードを受賞しました。充実した教育を1000人以上のスラムの子どもたちに提供することを目的としています。

- 演奏時間：約60分（音楽クラスにて演奏）
- 参加者：約45名（生徒約40名＋教職員5名）
- カルテットの演奏の後、生徒たちがインドの歌を披露してくれました



10. 子どもたちにチェロを見せるスタニスラス

●12月23日【アグラ】

11. Robins Nest Children Home (児童養護施設・学校)

<https://www.facebook.com/RobinsNestOrphanage>

ストリートチルドレンやアグラ周辺地域の子どもたちのためのキリスト教系孤児院・学校です。

- 演奏時間：約45分（施設のクリスマス会にて演奏）
- 参加者：約130名（子どもたち約120＋スタッフ10名）
- クリスマス会では子どもたちが歌や踊りを披露してくれました



11. カルテットの演奏に聴き入る子どもたち

12. St. Joseph's Dispensary (Assisi Sister's) (病院)

貧しい人のための無償で治療を施す修道院病院です。

- カルテットメンバーはそれぞれ病室を訪問し、患者のそばでソロで演奏
- 演奏時間：合計45分（8病室、各5～10分）
- 参加者：約40名（患者約30名＋スタッフ10名）



12. 患者を前に演奏する五嶋みどり

●12月24日【アグラ&ヴリンダーヴァン】

13. Aryashree (母子生活支援施設)

<http://aryashree.in/>

Aryashreeは、500名以上の子どもたち、200名以上の女性たちに支援を行っている団体です。教育、健康、衛生、一般常識、スラム地域の女性や若者たちのエンパワーメントといった様々な分野でサポートを行っています。

- 演奏時間：約45分（子どもたちに向け、事務所の庭で演奏）
- 参加者：約70名（児童約60名+スタッフ10名）



13. クリスマスの飾りつけがされた事務所の庭で演奏

14. Ma Dhaam (女性生活支援施設)

<https://www.facebook.com/madhaam>

Ma Dhaamは、未亡人となった女性が尊厳と誇りのある生き方をするためにサポートを行っています。住居、基本的な生活用品、快適な環境、医療施設、教育と技能育成を女性と少女たちに提供することを目的とし、カースト制度・宗教・民族性によって差別されることのない女性の包括的な育成を目指しています。

- 演奏時間：約45分
- 参加者：約80名（女性たち約60名 + スタッフやゲスト20名）



14. 西洋クラシック音楽に聴き入る女性たち

デリーと比べると往來がゆったりとしている（人口2百万人の）「小都市」アグラより、みなさまの楽しい休暇をお祈りします…

昨日は、私たちは世界七不思議の1つであるタージマハルを訪れました。息を呑むほどです！ これほどの建築美と完璧さを備えたお手本のような建物が、わずか22年間のうちに建てられたとは信じられません。

今日の午後、私たちはヴリンダーヴァンの母親たちのための施設（Ma Dhaam）に行きました。これほどにも落ち着いて包み込むような場所を見るチャンスは私にはありませんでした！ 少し修道院を思い出させます。ほとんどの女性が路上生活から救出され、そうでなかったら自分の命を絶たなければならなかったのです - 古いヒンドゥー教の伝統では、女性は夫が亡くなった後は社会的地位を失ってしまったのですから。他に、極度に虐待されてMa Dhaamに住むようになった女性たちもいました。彼らは支援と保護を受けています。

温かい歓迎を受け、彼女たちが音楽にどのくらいの関心、熱意を寄せ、感謝をしたかを見て感じ取ったことで、とても心打たれました。この美しい経験をともに分かち合うことができ、みな喜んでいて信じています。

(ICEP Blog: スタニスラスより)

●12月25日【ドウルガプル】

15. Durgapur Leprosy Colony (ハンセン病村)

三世代約200名が居住者するハンセン病村

1部:

- 村のホールに居住者を招くため、カルテットメンバーはそれぞれ分かれて村の路上で約20分演奏

2部:

- 演奏時間：約40分
- 参加者：約170名の居住者
- 演奏後、村の子どもたちが民謡を歌ったり、ダンスを披露してくれました



15. 村の路上で演奏するエリーナ

レクチャー1. インドのハンセン病について

NPO法人わびねすの代表者、梶田恵理子さんからインドにおけるハンセン病の現状をレクチャーしてもらいました。



レクチャー1. レクチャーを受けるメンバー

私たちの時間の感覚も、だんだんインド風になってきました。飛行機が2時間遅れても別に驚かなくなりましたし、ホテルの出発予定時刻の10分前までに朝食をとるメンバーは誰もいません。ハンセン病村を訪問する頃にはすっかり時間の感覚がなくなってしまったようです。（日本のNPO法人「わびねす」の恵理子さんが3か所の村に案内してくださいました。彼女は村の一つに住んで活動をしています。）ハンセン病は、人々の間で言われているような恐ろしい病気ではなく、大人になってからの感染はほとんどないですし、発病しても治療によって完治するのだ、と彼女は強調しました。

私たち一同は村で昼食（実際は私たちの到着が遅くなり、ほぼ夕食の時間帯）を取った後、居住区の中心にあるコミュニティ・センターで開くコンサートの宣伝も兼ねてまずは村内の3つの通りに分散し、各自が村のあちこちで短いソロ作品を演奏しました。私が土堀の家々から出てきて、初めは物珍しそうに、そしてすぐに笑顔をかきつけて、音楽に合わせて頭でリズムを取る様子に、、、。

(ICEP Blog: ベンジャミンより)

●12月26日【ビシュヌプル&ペアドバ】

16. Bishnupur Leprosy Colony (ハンセン病村)

三世代約120名が居住者するハンセン病村

1部:

- 村のセンターに居住者を招くため、カルテットメンバーはそれぞれ分かれて村の路上で約20分演奏

2部:

- 演奏時間：約40分
- 参加者：約90名の居住者



16. コンサートのために居住者を集めるカルテットメンバー

17. Peardoba Leprosy Colony (ハンセン病村)

三世代約70名が居住者するハンセン病村

1部:

- 村のセンターに居住者を招くため、カルテットメンバーはそれぞれ分かれて村の路上で約20分演奏

2部:

- 演奏時間：約40分
- 参加者：約60名の居住者



17. Peardoba Leprosy Colonyの居住者の前で演奏

西ベンガル州に来て2日目を迎えました。昨日はデリーからコルカタへのフライトが遅れましたが、誰もイライラしていないのに感心しました。いつ何をするかを決めるのは時間か人か、まあ考え次第でしょうか。

その間、ハンセン病村の3カ所を訪問しました。ハンセン病は、らい菌が主に皮膚と神経に感染する慢性細菌感染症です。それにしても、訪問前に「予防接種は受けたか？」という何人かの知人の質問を受けました。

村ではハンセン病による後遺症の身体障害や体の変形を持つ元患者に会うだろう、屋根のないバラックのような施設が病院らしき所を訪問することになるのだろう、と想像していました。ところが、実際は想像の貧困ラインを下回る厳しい生活水準であるのに、そこに暮らす人々はエネルギーで、特に子どもたちは温かい笑顔で私達を歓迎してくれました。

インドには約800ものハンセン病居住地域があるということですが、私たちが訪問できたのはたった3カ所でした。ハンセン病村が直面している問題は病気そのものではなく、何世代にもわたって苦しめられてきた深刻な社会的差別なのです。2017年現在、ハンセン病の新たな症例が毎年報告されていますが、計画的に薬を投与されれば完治可能な病気であり、他人に伝染することはほとんどありません。症状を目にした人々は恐れるかもしれませんが、致命的な病では絶対にはないのです。しかしなぜかこの病気は世間では極度に恐れられ、発症した人々は残虐で容赦ない差別にさらされています。症状が現れる可能性はまずありませんし、実際に症状が身体に現れた場合でも感染したのは10年も前かもしれないのです。

様々な政府機関や地域社会がずっと以前から最近に至るまで、ハンセン病の犠牲者に対して、許し難く残忍な仕打ちを行ってきました。未だに一部で、理不尽な方法で社会的に貶め続けているところもあります。私たちは村を訪れたことにより、西ベンガル州や他の地域でも村に住んでいる人々のうち大多数は患者ではなく、ほとんどが数少ない元患者の2世や3世にあたる家族だということを知りました。それでも、病気に対する社会の非難や偏見のため、彼らは社会から疎外されて貧困の悪循環を断ち切ることができないのです。また、世界的な基準に基づいた実際の患者数や発症数は非常に少ないのに、差別や先入観が患者本人だけでなくその周囲の人々にも向けられることで実態以上に深刻な問題となっています。

これらの村に強要される社会の不当な仕打ちを前にした私たちの演奏は、どのように感じられたでしょうか？間違いなく、私たち全ての者の心に響いたと思います。音楽は美しい感情をもたらしてくれます。子どもたちの真剣なまなざしを感じ、頭上では鳥たちがさえずり、母牛と子牛がムーと鳴き、子犬が駆けっこする、音楽とその心もまた流れ出て、私達を包み込んでくれました。それは私にとって最も理想的な音楽との出会いの一つとなりました。

(ICEP Blog: 五嶋みどりより)

●12月27日【コルカタ】

18. OFFER – Anandagahr (児童養護福祉施設)

<https://offerindia.org/anandagahr/>

HIV感染症の子どものための特別なケアを提供している団体です。この取り組みを通じて、子どもたちの人々への信頼を取り戻し、彼らが社会に適応できるよう努めています。現在、70名の青少年が施設に滞在。また、HIV患者の子どもたち300名が継施設を通じて継続的にサポートを受けています

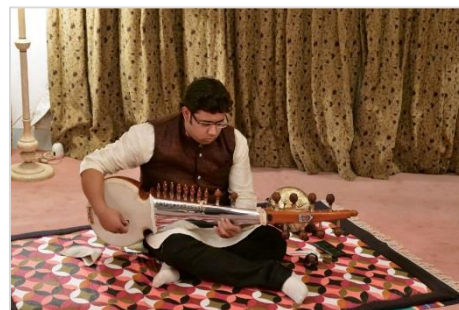
- 演奏時間：約45分
- 参加者：約75名
(精神障がいやHIV感染の子どもたち約60名＋スタッフ15名)



18. 子どもたちとの時間を楽しむベンジャミン

レクチャー2. インド音楽について

インドの古典音楽の演奏と紹介を、サロッド演奏者のDwiptanil Bhattacharjeeさん、民謡歌手のDebalina Bhowmickさん、そして文化交流組織の設立者であるAmitava Bhattacharyaさんがしてくれました。



レクチャー2. サロッドを演奏するDwiptanil Bhattacharjeeさん

今日はHIV陽性患者の子どもたちのために演奏しました。残されている時間がどれほどかわからない…こんな運命の中で生きていくということは簡単に創造できる事ではありません。また本当に幼い子どもたちもいました・・・子どもたちの音楽への反応はとてもパワフルで、聴いているみんなが私たちにエネルギーを戻ってくるのを感じました。困難への共感や同情を表す言葉が見つからなくても、音楽はいつもそばにあるのです。夕方の活動は、(この国インドのすべての事柄に当てはまるように)非常に対照的でした。私たちは、コルカタの日本領事館で領事館の関係者とインド古典音楽を演奏してくれた演奏者たちで成るごく少数の人々の前で演奏しました。Dwiptanil Bhattacharjeeさんが演奏するインドの古典楽器、サロッドの響きに想像以上に感動しました。この神秘的な楽器の音色は、私たちを古代へいざない、また、西洋音楽の世界との違いに驚嘆させられました。とても楽しい夕食の間、次々会話が弾み、とても知的な議論を交わしました。また、Dwiptanilさんには、彼の人生とインドの古典音楽世界について、多くの質問がありました。確かに、思うことや考えるべきことはたくさんありますが、今夜たっぷりインスピレーションを得たと思います。

(ICEP Blog: エリーナより)

●12月28日【コルカタ】

19. Future Hope (児童養護施設)

<http://www.futurehope.net/>

Future Hopeは、コルカタのストリートやスラム街で最も弱い立場である子どもたちに、家庭・学校・医療などの機会を提供する慈善団体です。貧困層の子どもたちの生活を変え、自立した、社会の一員として自活できるようサポートしています。

- 演奏時間：約45分
- 参加者：約65名（子どもたち約60名＋スタッフ5名）



19. Future Hopeの子どもたち

インドで私達はたった2日間しか残っていません。時間という話題はとても興味深いもので、また、私達が意識するものでもあります。時間は時にリラックスしたもののようで、又早く過ぎているように感じます。ICEP ツアーメンバーの誰一人として、インドで後2日しかないこと、そして既にここに10日も居たと言うのが信じられません。インドの古典音楽の音色は未だ私達の耳に残るなか、「フューチャー・ホープ」に向かいました。例の「あちら」→と指差す方向案内にそって学校に着き、食堂でウォームアップをするその間、キッチン・ヘルパーが、野菜を洗ったり、切ったり、分けたりしていました。子どもたちは彼らが学校がお休み中なのに集会の為に集められたのですから、プレゼンテーションの始頃は、不満そうに見えたのですが、それは私達の想像だったのかしら。でもコンサートの中頃には、彼らがとりつかれたようになったのがわかったのです。子どもたちの英語力は高かったので、通訳なしで、ゆっくり、はっきりと喋りかけ、彼らも恥ずかしがらず、私達に質問をしました。

(ICEP Blog: 五嶋みどりより)

●12月29日【デリー】

20. Sannidhi School (学校)

経済的に厳しい家庭の子どもたち約95名が通う学校です。

- 演奏時間：約45分
- 参加者：約90名（生徒約80名＋教職員10名）



20. はじめてのカルテット演奏を注意深く聴く子どもたち

デリーに戻ってきた私たちは、全員風邪を引いています。音楽を咳、鼻をかむ音が伴奏のアンサンブル。いつも全員同じバンに乗って移動し、いつも一緒にいるのですから、全員一斉に病気にもなるのは、連帯感の賜物ですね。今日でICEPインドの活動も最終日となりました。少なくとも暫くの間はインドとも、仲間ともお別れです。

(中略)

荷物を取りにホテルへ戻って、Sannidhi小学校へ向けて出発しました。オールドデリーからは車で45分くらい（渋滞がなければもっと早い）のところにあるのですが、そこはまるで別世界で、舗装された道も、高い建物らしきものも皆無で、大通りで車を降りてから道を尋ねようにも人通りが少なく、学校に行き着くまでかなり迷ってしまいました。なんとか到着したところで、学校のスタッフが建物の中に案内してくれました。床には花びらを飾り、迎えてくれました。

(中略)

新しい経験の連続だった衝撃的なこの11日間。初めての味（デリー北部の料理の他にもパンジャブ料理、タミル料理、バルシー料理、カシミール料理）、いろいろな種類のチャイ、町や村を歩くことで考えさせられた都会と田舎の生活について、初めての注目（子どもも大人も初めての私達に好奇心を寄せて熱い視線を送り、耳を澄ましてくれたこと）。新しい光景（タージマハル、赤い城、重さで売られる本、「2個買ったなら3個おまけ」のサイン）、新しい音（インド伝統音楽）、新しい概念（時間に関して）、問題（人身売買、墮胎、不名誉と差別など）の深刻さの新たな認識など、これら全てを私たち全員が持ち帰り、他の人とも共有しながら、自分自身の中でさらに追求し、理解を深め、偏見なく、継続的発展のために好奇心を持ち続けるようにしたいと思っています。

百聞は一見に如かず。有意義な経験は人格形成に、生涯に、強い影響を与えます。

(ICEP Blog: 五嶋みどりより)

認定NPO法人

ミュージック・シェアリング

〒102-0092 東京都千代田区隼町2-12 藤和半蔵門コープ708
TEL:03-3261-1855 FAX:03-3261-1856 E-mail:info@musicsharing.jp
<http://www.musicsharing.jp>